

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400088		
法人名	有限会社 伊野本陣		
事業所名	グループホームやまも		
所在地	島根県出雲市美野町504番地		
自己評価作成日	令和6年2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290400088-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和6年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は旧本陣を利用した古民家のような懐かしい雰囲気の漂うグループホームです。自然が豊かな立地にあり敷地内には沢山の木や花があります。宍道湖や日本海も近く季節を感じることが出来ます。食事は施設で手作りしておりホール内にご飯の炊ける匂い、台所から聞こえる音など自宅を思わせるような雰囲気をを感じ過ぎて頂けると幸いです。職員間の関係も風通しがよく、ケア・対応についてこまめな話し合いや相談を行いその時々に必要なケアが出来るよう柔軟な対応を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から17年目を迎えた旧本陣を利用された落ち着いた佇まいのグループホームです。自然豊かな場所にあり、周辺を散歩されるだけでも季節の移ろいを感じられ、近くには宍道湖や日本海もあります。食事は3食手作りで提供されており、季節を感じられる行事食や毎年恒例のみなさんでのつし柿作りや手作りおやつも作られています。コロナ禍で外出が制限されていましたが、毎月ホーム内で行事をされ、利用者が楽しんでいる様子は家族にも毎月写真を添えて送られており、面会できない状況下での安心を届ける工夫がされていました。経営理念の「安心と尊厳のある生活を営むことの支援」を実践できるよう職員の皆さんは接遇にも気を付け、誰でも同じ統一したケアができるよう情報共有を行い、話しやすい風通しの良い職場環境になるよう努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念・ケア理念に沿ったケアを行うよう心掛けている。	グループホーム内各所に経営理念・ケア理念が掲示されており、職員はいつでも確認できるようにされています。日々のケアについて意見を出し話し合われる風通しの良い職場環境です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜を頂いたり近所の理容店で利用者さんの散髪をして頂くなど地域との関りは続いている。地区の文化祭にも声を掛けて頂き参加させて頂いたり、施設のお祭りには近所の方が沢山来てくださっていた。	開設から17年を迎えられ、近くの方が野菜を届けて下さったり、利用者の散髪を近所の理髪店でされたりという日常的な交流が続けられています。コロナ5類に伴い再開された地区の文化祭に参加されたり、施設のお祭りも再開され近所の方にもお出掛け頂かれました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の回覧板に当施設のお便りを入れさせて頂いている。地区や校区内の中学校から依頼を受け認知症サポーターの講師をさせて頂いた事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度運営推進会議を開催し利用者の状況報告・施設の問題等を話し合い、行政担当・コミセン・自治会・近隣の方に意見を頂きサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1度併設の小規模多機能事業所と共に開催し、利用者の状況、ヒヤリハット、事故事例れています。コロナ5類移行になり現在は対面での開催をされています。	避難訓練や昼食試食会等より分かりやすく、意見が出やすい内容になる工夫に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出雲市のグループホーム協議会に参加し必要に応じて連絡連携が図れるような関係作りができています。また運営推進会議に参加して頂き積極的な協力関係を構築している。	出雲市グループホーム協議会に参加され、必要に応じて連絡・連携が図られています。6年度報酬改定はオンライン講習を受けられました。運営推進会議にも市職員の方に参加頂き情報提供を頂いておられます。4ヶ月に1度介護相談員も来られ、利用者の方の意見等聞いて頂いております。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを行っている。利用者の状態に応じて、月一回のカンファレンスを行いその都度ケアの方向性を確認したり、職員によってケアや対応にバラつきがないよう心懸けている。	身体拘束廃止委員会も併設の小規模多機能事業所と一緒に3ヶ月に1度開かれています。毎月のカンファレンスにおいて、ケアの方向性や職員によってケアや対応にバラつきがないよう話し合わせ、スピーチロックについても気を付けておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が起きることがないように、話し合いやカンファレンスを行う。対応にバラツキのないように心掛けている。	虐待防止委員会も併設の小規模多機能事業所と一緒に身体拘束委員会同時に開かれています。虐待につながるような言動について話し合わせ、接遇等の施設内研修も行われています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時また、相談があった場合には対応している。以前一度あったが、最近では事案がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入所することが最善かどうかも含めて内容の説明を行い理解してもらったうえで手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が希望・要望を話しやすい関係作りを心懸けている。 相談・要望・苦情等あれば施設長・管理者に相談して迅速に対応するようにしている。	利用者からは毎日の会話の中から意見・要望を聞いておられます。家族等からは面会時やプラン見直しの際に意見・要望を伺われています。毎月日々の様子を写真付きのお便りで送られ、話しやすい関係性が築けるよう心掛けておられます。相談・意見・要望があれば施設長、管理者に報告され迅速な対応が行われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長・管理者と職員が気兼ねなく意見を言いやすく、意見・提案の意見交換ができるような環境である。	ケア内容やホーム運営については毎月の職員会議で話し合わせ、施設長、管理者に職員が意見や提案がしやすい風通しの良い職場環境となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間は職員それぞれの家庭環境に合わせた勤務時間、休日の希望等出来る限り希望に沿うようにしている。職員がストレスなく働ける職場を目指しており、離職率の低下に繋がっていると思われる。	職員一人ひとりのワークバランスを考慮した勤務体制が組まれており、管理者等は職員の様子を見て都度話を聞かれストレスのない職場を目指されており、離職率も低いです。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力・勤務年数に応じた研修への参加をし、スキルアップを図っている。 コロナ禍の為研修自体があまり行われていなかったがリモートでの研修や少しずつ再開されている研修に参加するようにしている。	職員一人ひとりの勤務年数や能力に応じたキャリアアップ研修が行われています。施設内研修も行われています。可能な外部研修もリモート研修と併用し研修に参加されています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為同業者の方との交流も行われなくなっていたが、また再開した時には参加したいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時生活状況の把握に努め、本人・家族からの希望要望を聞き不安なく施設での生活がスタートするよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況・思いを受け止め信頼関係作りに努めている。入所前に施設を見学して頂き、入所後しばらくはこまめに連絡を取り本人の様子をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や相談があった家族が何に一番困っているか確認するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや訴えを最優先に考え行動するようにしており、言動にも気を付け、日々の生活がより良いものになるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に本人を支えていける関係を作るよう心掛けている。コロナ禍には面会が出来ない期間が続いていたが、現在は玄関ホールでの面会が出来るようになり皆さん喜んでおられる。日々の様子は手紙やメール、電話でお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナでの面会制限もなくなり、施設へ家族や親せきの方が来られるようになってきている。施設での様子を写真にしてお送りしたり、馴染みの関係が途切れない様支援している。	面会制限も解除され、家族や親戚の方と利用者が会われたり、一緒に外出される機会も持てるようになってきました。ホームでの利用者の様子を写真に送られ、馴染みの関係が途切れないようにされています。	馴染みの方や場所に行った場合には、利用者の方に思い出話をして頂き、回想法につなげられると良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格・気性に気をつけ、孤立しないよう、トラブルが生じないよう座席の配置等考慮している。また利用者同士のコミュニケーションの場を提供して関わり馴染みの関係を築いていけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係の続いている家族もいたが、現在はおられない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の意向を把握してケアプランを作成するよう心掛けている。意思疎通が困難な方については家族の意向を確認し思いをくみ取り、本人に必要なサービスを行うように努めている。	日々の暮らしの中の会話から本人の思いや意向を汲み取れるよう心掛けておられます。意思疎通が困難な方は家族の意向や生活歴等から本人に必要なサービスが行えるよう努め、ケアプランにつなげておられます。	生きがいや生きるための目標作りにつながるよう心掛けられると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人または家族とのコミュニケーションの中から以前の生活環境・生活歴等を聞き取り把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの利用者に生活リズム・体調の変化などを個人記録やスタッフ日誌・グループメールで情報を共有しケアにバラつきが出ないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から意向希望を聞き取り日々のケアに活かせるように努めている。よりよい生活が出来るよう職員間で話し合いを行い個々に合ったプランを作成している。	毎月モニタリングが行われており、担当からの提案があり計画作成と素案を作成され、本人・家族の意向確認をされ、原案を作成、職員のカンファレンスを行い本案のプランが決定されます。プランの評価・見直しは6ヶ月毎に行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かい出来事は個人記録へ、体調の変化やいつもと違う様子や内服薬の変更などはスタッフ日誌やグループメールで情報を共有できるようにしている。	プラン変更時にはスタッフ日誌に留意点を書き、職員は確認してから支援に入られます。どの職員でも統一したケアができるよう心掛けておられます。	事務時間の効率化に向けタブレットの導入も検討に期待します。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況・状態に合わせ柔軟なケアを行うようにしている。職員間で相談し、必要時には家族と話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者個々のニーズ・必要性に合わせた対応をし、生活全般が安全で豊かなものになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者は在宅時のかかりつけ医で診て頂いている。受診介助を行い緊急時には主治医に指示を仰ぎ対応している。利用者の状態に合わせ受診が難しい利用者には往診に来て頂いている。	利用者・家族が希望される医療機関をかかりつけ医としておられ、多くの方は以前からのかかりつけ医で受診されています。往診可能なかかりつけ医もあります。受診介助も行われています。必要時には歯科の往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内 小規模多機能の看護師に相談し体調不良の早期発見、病状の悪化防止に対応できている。看護職員が中心となりかかりつけ医や訪問診療とを連携を図っている。バイタル測定・検温は毎日行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関・病院関係者と必要な情報を交換し、退院後のスムーズな生活を送ることができるよう退院前カンファレンスには同席し状態の把握に努めている。	入院時には必要な情報を提供され、病院内の地域連携室と連絡を取り合いスムーズな早期退院を目指し協力されています。退院時には退院カンファレンスが行われ退院後の生活への配慮・注意点を伺われています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・かかりつけ医とカンファレンスを行い、家族の意向を尊重し希望があればターミナルケアを実施。身体的・精神的ケアを行っている。家族からは緊急時に希望する対応・看取り期の過ごし方など事前に希望を伺っている。	利用開始時に利用者、家族等に指針を説明され同意を得られておられます。重度化が進まれた際には希望を伺い、再度意向確認を行い、家族・医師・ホームで話し合いその後の方針を決定され看取りケアが行われます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。 救命講習を受け、看護師や専門職より内部研修を通して急変時の対応などを学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年二回行っている。夜間想定訓練も行っており、災害時の対応を学び職員の防災意識を高めている。	年2回避難訓練が行われ、内1回は消防署立ち合いの総合訓練が実施されています。また、夜間想定訓練も行われて、災害時の対応を学ばれています。事業継続計画(BCP)の策定をされ、備蓄品も用意されています。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し対応するよう心掛けています。言葉使い・態度・プライバシーの保護について日頃から気をつけています。	マニュアルに沿って排泄・入浴時のプライバシー保護に気を付けられておられます。居室は個室ですから、プライバシーは確保されています。毎日のケアの場面で経営理念の「安心と尊厳のある生活を営むことの支援」が実践できるよう対応されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断能力が不十分な方が多いため本人の思いや何が最善なのか考え支援している。自己決定できる方には選択肢を提案するなどして希望を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切に、それぞれのペースで生活できるよう、また生活の中に楽しみな時間が持てるよう支援している。生活リズムを整え穏やかな生活に繋げることができるよう支援しているがなかなか難しい面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着替えができる方もいるが季節の合わない服装だったり着る順番が違っていたりする場合があります。職員が季節に合う清潔な服を用意して頂いている。身だしなみには気をつけており、爪や髪が伸びすぎないように気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、個々の状態にあった食事形態で提供している。利用者の重度化が進み介助が必要な方も多くおられるが過度な介助にならないよう注意している。行事食など食事が楽しみな時間になるように工夫している。	3食手作りの食事が提供されており、調理する匂いや音が伝わる家庭的な雰囲気です。毎年職員と一緒に柿作りがされたり、手作りのおやつ作りや季節の行事食も用意され、食事を楽める工夫がされており、食器洗いや食器拭きなどそれぞれができることを役割分担されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に合わせた食事量・食器で提供しており、刻み食・ミキサー食など個々の状態に合わせ対応している。食事量は毎食記録している。水分摂取量の把握・制限が必要な方は個人記録へ摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをし、不十分な部分は介助を行っている。自分ですることが困難な方には介助している。必要時には歯科医の往診や受診などもしているが、理解力の問題から治療が困難な方もいる。	食後には個々の状態に応じて、声掛けや介助が行われ歯磨きが行われています。義歯の方は夜間に洗浄液に漬けて清潔保持が行われています。必要時には歯科の往診も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ごとの排泄パターンを把握できるよう努めており排泄チェックを行い個々の排泄パターンを知りその方に合った時間での声掛け・介助を行っている。その時々の変化や状況に応じて支援方法を見直している。	排泄チェック表を基に個々の利用者の排泄パターンを把握され、状況に応じて声掛け、誘導、介助が行われています。トイレでの排泄継続に向け、それぞれの利用者の適した対応について検討をされて支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分摂取量を把握し排便状況を記録している。自然な排便が難しい方はかかりつけ医に薬を処方してもらい定期的に排便があるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望・体調に沿って入浴できるよう取り組んでいる。また排泄後の状態によって必要があれば入浴をしている。入浴の曜日は決めているが柔軟に対応している。	入浴回数、時間等利用者の希望や体調に合わせて柔軟な対応をされており、ほぼ毎日入られる方もあります。入浴拒否の方もありますが、無理強いはせず、タイミングを見て声掛けをされたり、職員を変えるなど工夫をし入って頂いております。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳に布団で就寝される方、ベッドで就寝する方、一人一人の生活習慣や状態に合わせている。休息時間に関しても個別に対応し、本人の希望や状態に合わせて入床して頂くようにしている。定期的なシーツ交換で清潔に心地よく休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録で薬剤情報を確認できるようにしている。薬の変更がある場合はスタッフ日誌・グループメールで全職員が情報を共有できるようにしている。	個人ファイルに服薬の内容、効能について綴られています。薬の変更があれば、スタッフ日誌、グループメールで全職員が情報共有をされ、服薬後の状態変化について注意し記録されています。状態変化があれば、看護師、かかりつけ医に報告され、支持を仰がれています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの今出来る事に合わせた軽作業(洗濯たみ・食器洗い・食器拭き等)をして頂いている。職員も一緒に行い昔の話を聞かせてもらったりと良い時間が過ごせている。役割を持ち喜びや気分転換に繋がるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍には実施できていなかったが少しずつ外出の計画をし、季節に応じて希望に沿った外出支援を行っている。久しぶりの外出でサーカスを見に行った時には皆さんとても喜んでおられた。	自然に囲まれているので、周辺を散歩されるだけでも季節の移ろいを感じて頂ける環境です。面会制限も解除になり家族と出掛けられる方もあります。コロナ感染防止のため控えられていたみなさん一緒での外出支援もできることから再開される予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理ができる状態の方はおられないため施設で管理をし、必要に応じて使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があり、家族も了承されている方は自由に電話を掛けたりしておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は家庭的な雰囲気、季節感のある環境作りをするよう配慮している。また物の配置に気を付け歩行の妨げにならないよう気を付けている。利用者が以前趣味で作っておられた刺し子などをホール内に飾り幼稚な雰囲気にならないよう気をつけている。定期的な換気を行い不快な臭いがしない様に気を付けている。	日本陣を改築された建物の良さを活かした落ち着いた雰囲気になるようにしておられます。季節を感じられる飾りや利用者の刺子の作品が飾られ、ソファを置かれたり、小上がりで寛がれ、それぞれが自分の居心地の良い場所で過ごされています。また、温度・湿度の管理をされ、定期的な換気も行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ好きな場所で気の合う利用者さん同士過ごせるよう工夫している。ソファを置き利用者は自分のお気に入りの席を決めテレビを見たり、外を眺めたりと思いいにゆったりと過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ち込み、使い慣れたもので居心地よく過ごせるようにしている。テレビやラジオを置きベッドで横になりながら見聞きしてゆったりと過ごしていただいている。本人の大切にしている写真や人形を飾っておられる方もいる。	一人ひとりの生活習慣や状態、利用者の希望に沿えるよう畳で布団で就寝される方もあり、ベッドも動線に配慮した位置に置かれています。自宅からは使い慣れた物や家具等好みに合った物を持って来て頂きできるだけ居心地の良い居室になるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には分かりやすいよう貼り紙をし各居室には名札を付けている。個々の状態に応じ居室内へ手摺りを付けたり危険がないような配慮をしている。また声掛けや誘導を行い混乱を防ぐよう工夫している。		